

長谷川邸

長谷川邸は新潟県に保存されている最古の民家です。15 代にわたり、当時越後国と呼ばれていたこの地域で最も有力な家系の一つである長谷川家の在宅でした。

長谷川家の初代は武士として名を馳せていました。その後、この住宅が建つ土地の所有権を譲り受け、農民となり、やがて大きな富を蓄積していきました。1800 年代半ばから 1900 年代初頭にかけて、一族は周囲の耕地の約 70%を所有していたと考えられています。ピーク時には、これらの 180 ヘクタール（445 エーカー）で 1 回の収穫で約 240 トンの米が収穫されました。1706 年、火災で本邸は壊滅しました。現在の家は 1716 年に建てられたものです。

長岡市とその周辺地域は毎年大雪に耐えているため、住宅の構造は積雪の負担に対抗できるように工夫されています。高級な地元産の木材は、屋根とサポートに余分な強度を与え、可能な崩壊からそれらを保護します。頭上に大量の雪が積もるのを防ぐため、屋根を深く傾斜させています。昔、その藁葺きは、家の中で囲炉裏の火から発生する熱を保持するのに役立ちました。

母屋、居間の別館、書類を保管する部屋、大小さまざまな保管庫など、いくつかの異なる建物が住居を構成しています。母屋に直接つながる玄関の門。そこから、のれん（ドアカーテン）で飾られた巨大な屋根と木造の入り口を含む建物の正面を捉えることができます。

家の中では、長谷川家が何世紀にもわたって手に入れた江戸時代の地元の芸術家による作品を楽しむことができます。現在は使われていませんが、1800 年代の日本社会ではまだ珍しかった室内トイレもあります。

狭い堀が邸宅全体を取り囲んでいます。建物の表か裏からしか渡れません。お堀の中をカラフルな錦鯉が泳いでいます。母屋の中庭を挟んだ奥には、かつての米の貯蔵庫だった建物が博物館として利用されている。長谷川家文書館に所蔵されている様々な遺物や写真、資料などを所蔵しています。これらの展示を通して、この地に住んでいた 15 世代の物語をより深く理解することができます。

1982 年（昭和 57 年）に国の重要文化財に指定されました。

長谷川邸

開館：4 月 1 日～11 月 30 日

開館時間：9:00～16:30

入館料：大人¥420／子供¥210

アクセス：塚山駅から徒歩 15 分。長岡駅からバス直通。バスは長谷川邸目の前に止まります。